

平成 30 年度かながわの遺跡展
「潮風と砂の考古学」第③回特別講演
平成 31 年 2 月 11 日 神奈川県立歴史博物館

人はなぜ砂の上に住むことを選んだのか

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
無形文化遺産部 音声映像記録研究室 室長
石村 智

はじめに：潟湖地形と古代の港

潟湖地形とは

- ・ 湾が砂州によって外海からへだてられ、ラグーン（内海）になった地形
代表例：天橋立（京都府）、サロマ湖（北海道）
- ・ 後世の地形変化や干拓などにより、ラグーンが埋め立てられ平野になった例も多い
なぜ潟湖地形が古代の港として選ばれたのか
- ・ ラグーン内はおだやかで、船を停泊させるのに適している
- ・ 古代の船は喫水が浅いため、ラグーン内に入るのが容易だった

事例 1 揖保川下流域（兵庫県）

事例 2 北海道 標津・野付半島

事例 3 フィジー・ボウレワ遺跡

まとめ

- ・ 海へのアクセスを重視した人々（＝海人）にとって、砂州上は住むのに適した場所であった
- ・ 砂の上に住むことを選んだ人々は、あらゆる時代・あらゆる地域にも存在しうる

参考文献

石村 智『よみがえる古代の港—古地形を復元する—』吉川弘文館、2017 年

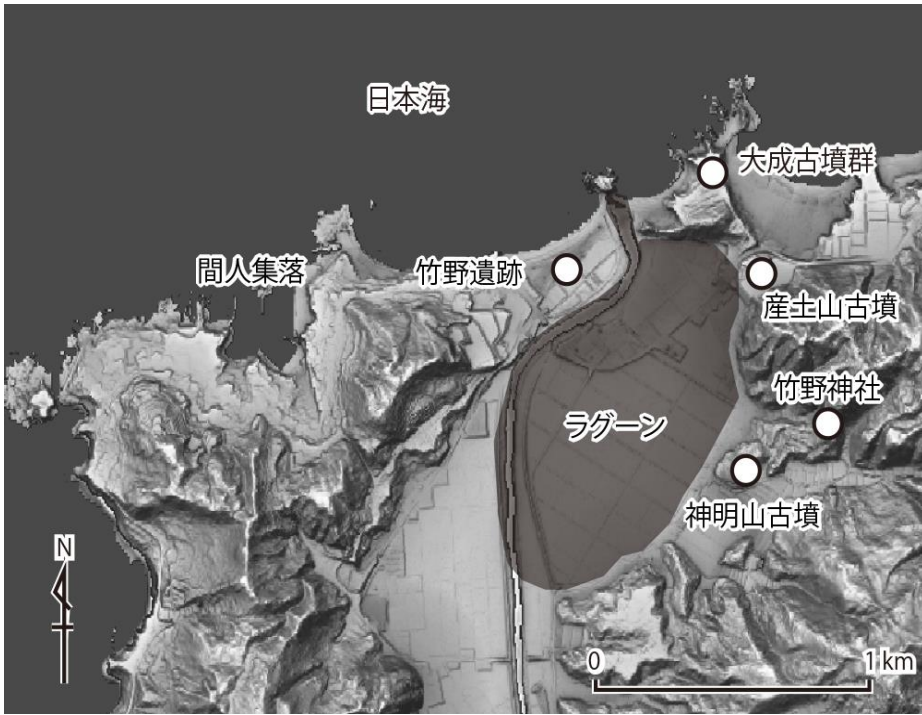


図1 京都府京丹後市竹野の潟湖地形（地形復元）



図2 兵庫県たつの市揖保川下流域の古地形の復元と遺跡分布



図3 北海道 標津・野付半島周辺の古地形の復元と遺跡分布

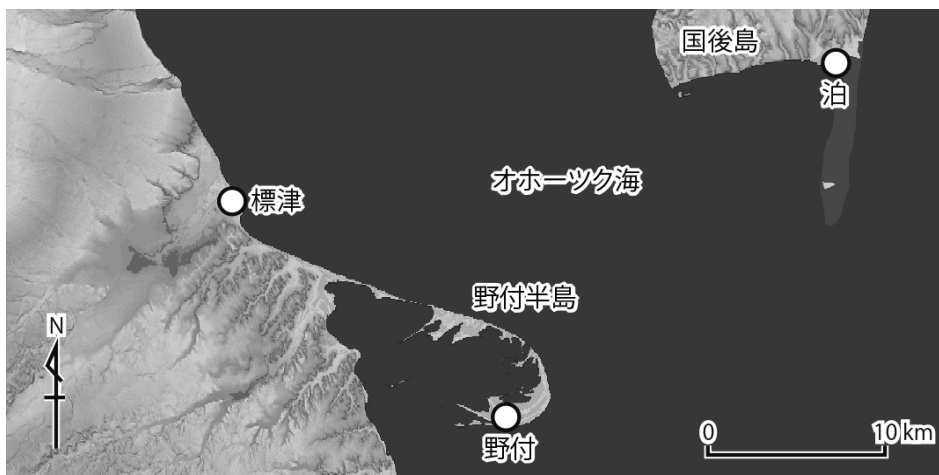


図4 野付半島周辺の近世の港

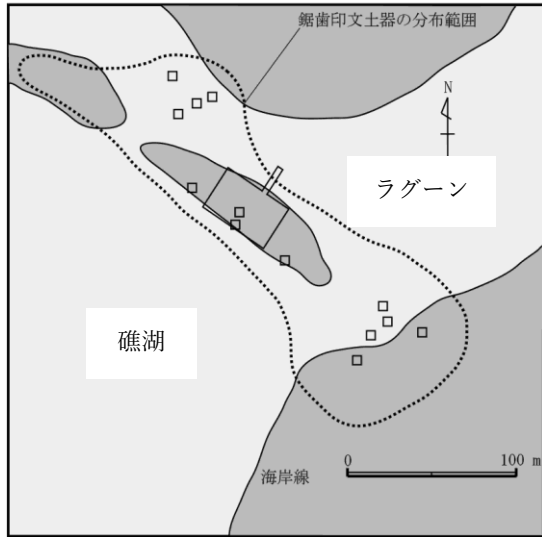
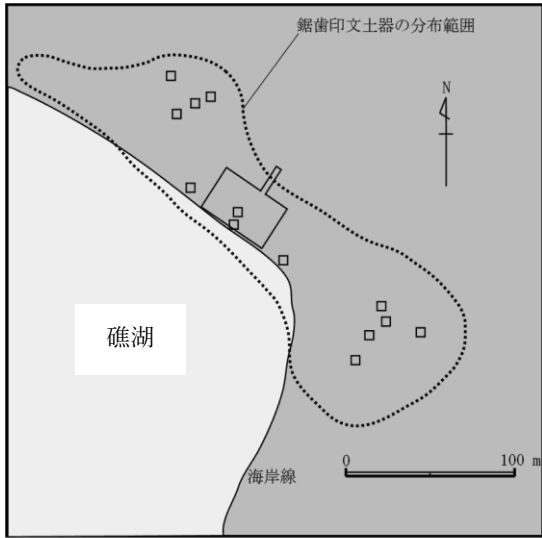


図5 ボウレワ遺跡周辺の現在の状況
(上) とラピタ期の状況の復元 (下)

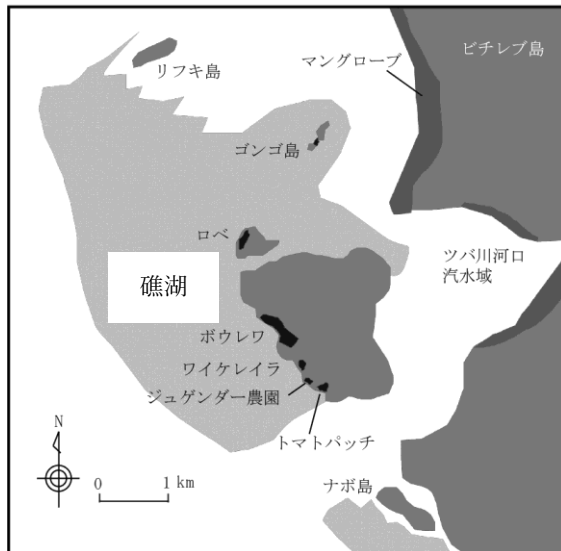
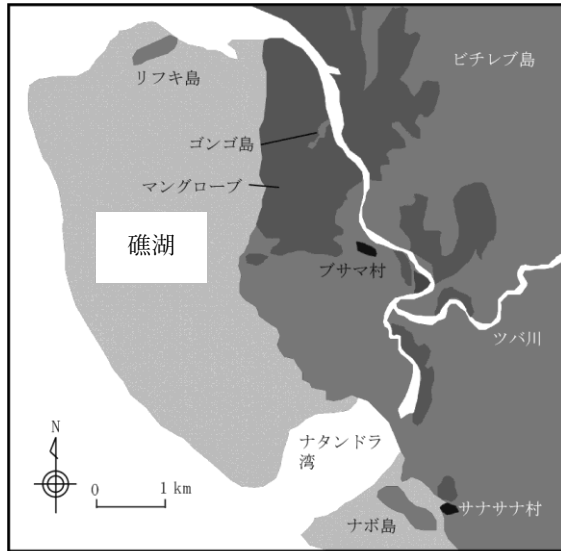


図6 ビチレブ島西南部の現在の状況
(上) とラピタ期の状況の復元 (下)

史料 1 『播磨国風土記』（現代語訳）

御津。息長帯日売の命（神功皇后）が、乗られた御船を停泊なさった港である。だから御港の意味で御津と名付けた。

伊都村。伊都というわけは、（神功）皇后のお召し船の水夫らが言ったことには、「将来のイツ（何時）か、この見えているところに行き着いて暮したいものだなあ。いい村だ」と言った。だから、伊都というのである。

宇須伎津。右の地を、宇須伎と名付けたわけは、大帯日売の命（神功皇后）が韓の国を平定しようとして海を渡って行かれた時に、お乗りになった船が宇頭川の泊に宿られた。この泊から伊都に海を渡って行かれた時に、たまたま正面から吹きつける風にあい、前進することができなくて、（回り道して）船越を経て御船を山越しさせたが、御船はなおもまた進むことができなかった。そこで村民らを追加して出てこさせ、御船を引かせられた。そのとき、村の女が（作業中の）わが子を水中から助け上げようとして入江に自分が落ちてしまった。だから女の姿がウス（失す）ということから、宇須伎と名付けた。【今の言葉ではイハスクという】

